

- 1 そろ多くの人の目に触れる冊子ではないが、▼
小社広告局が発行する「オッホ」の今月号で、▼
映画監督の大林宣彦さんがクイズを出している。
- 2 「一時間半の映画でスクリーンに絵が映っている時間は何分か」
- 3 正解は五十分だそうだ。
- 4 映写機は一秒間に二十四回まばたきするが、▼
シャッターが閉じてフィルムを入れ替わるのに九分の四秒かかる。
- 5 一時間半のうち四十分間、観客は闇を見ているのだという。
- 6 この闇を大林さんは、文章に例えて“行間”と表現し、▼
観客に行間を読ませるのが演出だと述べている。
- 7 九分の五の映像が物事の「記録」だとすれば、▼
九分の四の闇はその記録を心の内に投影する「記憶」の時間であるとも。
- 8 人も情報も高速で動く今、記録と記憶のバランスはどうだろう。
- 9 目的地での見聞、ネットや携帯電話の情報が大量に記録される一方、▼
それをゆっくり味わう記憶の時間が失われつつあるようにも感じられる。
- 10 ファストフード全盛の中、食事に時間をかける▼
「スローフード」が関心を集めているのは、その反動でもあるのだろう。
- 11 時間をかけて走る寝台特急が人気の理由も同じに違いない。
- 12 夏休みは「ゆっくり」を楽しむいい機会だが、今年は台風に邪魔された。
- 13 時速二十キロほど、自転車並の縦断が被害を大きくした。
- 14 こちらのユックリズムはありがたくない。